

私の将来の夢は 保育士になることです

若松商業高等学校 三年 森 奏弦



私は、小学一年生から学童保育に通っていました。低学年の頃は先生方や上級生に遊んでもらい、毎日楽しかったのを覚えています。高学年になると、今度は私が下級生の世話をすることにになりました。天気の良い日は、一緒に外でサッカーやドッジボールをしました。雨の日は、将棋やオセロをしたり、絵本を読んであげたりしました。優しく接してあげると、下級生も私になついてくれました。

しかし、みんなで仲良く遊んでいるときはいいのですが、ときどき下級生同士でけんかすることもありました。そんなときは、私が割って入って、けんかを止めなければいけません。そのうえで、中立の立場で両方の話を聞きました。そして、けん

かの原因を作ったり、先に手を出したりした子には、きちんと謝らせ、仲直りをさせました。この経験から、年下の子と接するときには、優しさだけではいけないということを学びました。しかし、下級生の世話をすることをおして、「年下の子のお世話をするのは楽しい。」と感じるようになりました。そして、将来は保育士になりたいという目標を見つけました。

中学生になって、保育体験に参加しようと思っていました。が、コロナ禍のため、職業体験がなくなってしまいました。それでも、保育士になるという目標は変わりませんでした。その代わりというわけではありませんが、親戚で集まる時には、すでに年下のいとこたちの面倒を見てあげました。お互いに年の近いところ同士は、仲良くなるのも早いですが、おもちゃの取り合いなどで、けんかになるのも早いです。そんなときには、学童保育のときの経験が役に立ちました。ちゃんと両方の言い分を聞いて、公平な立場で話をしてあげると、すぐに仲直りを

してくれました。

今、私は若松商業高校に通っています。そして3年間担任としてお世話になっている先生から「凡事徹底」という言葉を教えていただきました。この言葉の意味は、特別なことではなく、ごく平凡なことを徹底してやり抜くということです。私は、勉強があまり得意ではありません。しかし、どの教科も一生懸命に授業を受け、課題の提出なども確実にこなしています。資格取得にも積極的に挑戦しています。掃除も隅々まできれいになるよう、ていねいに取り組みます。部活動では、サッカー部に所属していますが、部員が足りないため、試合には出場できません。それでも、いつか試合に出られることを目標に練習を頑張っています。すべてがうまくいっているとはいえませんが、自分がするべきことを当たり前のように遂げるように心がけています。

そして、高校卒業後は進学を希望しています。高校時代と同じように一生懸命勉強に取り組みもうと思います。また、サッカー部に入部して練習に励み、公式戦に出場したいと思っています。そして、保育士の資格を取り、保育園への就職を考えています。

保育士になったら、毎日保育園に通ってくる子供たちに優しく接したいと思います。しかし、優しいだけではだめだということも、学童保育での経験からわかっています。ときには厳しさも必要だと思います。園児に大きな影響を与える保育士の仕事は、やりがいのある仕事です。そのために、「凡事徹底」を貫くことが目標の実現に近づくと思っています。これからもがんばります。



幸せのカタチ

高陵高等学校 三年 中川 慶哉



これから私の考える幸せな家庭について話をします。短い時間ですがどうぞよろしくお願ひします。

先日、ふとしたときに幼い頃のビデオを見返していました。

両親と幼い姉がボールで遊んでいたりと、お風呂上がり姉の髪をとかしていたりと、ごくごく普通の日常の風景でした。しかし、この何気ない日常が、とても美しく愛しいものに感じられたのです。

私は姉と兄と私の3人兄弟です。私の母は、私たち兄弟のことを第一に考え、常に寄り添ってくれる人です。誰かが病気で寝込むと、仕事を切り上げ喉の通りやすい料理を作ってくれます。些細なことも常に気にかけてくれて、心配をしてくれません。幼い頃は、当たり前だと思っていました。高校生になり振り返って考えると、大変なこともあっただろうな

と思い、感謝の気持ちがあふれてきます。

父は、常に厳しさと愛情を持つて私たちの間違いを正してくれる人です。そして、私たちの前では決して弱音や愚痴をこぼさない強い人です。この年齢になって、家族にネガティブな面を見せない強い大人に憧れますし、私自身も父のようになつてほしい大人になりたいと思っています。

姉と兄は長男・長女ということもあり責任感が強く、優しく私にとって良き理解者です。私が誤つたことをしないように背中を道を示し、私より常に大きな存在として前を歩いてくれています。そんな姉と兄は私のお手本であり、憧れであり、大きな目標です。

私の両親は、私が小学生のときに離婚していて、今私たち兄弟は、母と暮らしています。幼かった私は、両親の離婚について何もわかつておらず、かつて住んでいた家から近くのアパートに引っ越すことになったときも、引っ越しというだ

けでワクワクしていましたし、友達にも離婚したから引越すのだ、だから家が2つに増えたんだ！と深く考えないで伝えていました。ですが、学年が上がるにつれて、両親の話になると、友人から「そっか、辛かったね」「なんかごめん」と言われるようになりました。

父とは今でも頻繁に会って食事をしたりゴルフに行ったりと、一緒に暮らすことはできなくなっただけで、今は今でも幸せな時間を過ごしています。

私自身は幸せなのに、なぜか可哀想な人だと思われてしまう。両親がいつしよに暮らしていないことが辛いのではなく、「可哀想な人だ」と思われていることの方が、本当に辛く思うようになったのです。それからは自分の両親が離婚しているのを隠すようになり、うまくごまかすようになりました。

ですが高校生になり、新しい友人と関わっていく中で、自分の複雑な家庭事情を苦にもせず堂々と話す人や、そのことに対し可哀想だと思わない人にたくさん出会いました。自分はおかしくはないんだ、可哀想ではないんだ、と強く感じることができ、私の家庭事情も少しずつ自信を持って話せるようになっていきました。

私の家族を客観的に見て、可哀想な家族だとは思いません。皆で笑い合ったり支え合ったり、時には言い争うこともありませんが日々幸せな日常を送っています。

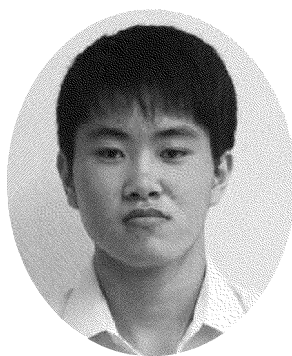
「幸せのカタチ」は無限にあるはずです。

悩みや不安がある家庭を不幸だとは思いません。その悩みや不安を誰かと共有し、一緒に支え合う事もまた幸せだと思えます。他人の家庭と比べるのではなく自分の幸せを大切に。それぞれが自分の「幸せのカタチ」をみつけることが、私たちの生きる意味なのかもしれないと気づきました。

私にとって父や母はとても大きな存在です。私も将来は家庭を持ち、家族のことを第一に考えられる心優しい大人になり、家族を支えていきたいと思えます。そして、私なりの「幸せのカタチ」を作っていきたいと思っています。

御清聴ありがとうございました。

将来の夢



若松高等学校 三年 大谷 高輝

私の将来の夢は、国会議員になることです。ただの国会議員ではなく、国民が将来に希望を持ち生活できるような政治ができる国会議員になりたいと考えています。

国会議員という職業について深く考えるようになったのは私が中学校一年生の三学期のことでした。当時はコロナウイルスが日本でも確認され、未知の感染症にみんなが怯えていたころでした。学校は臨時休校となり、自宅待機の期間でした。寝ても、寝てもまだ学校は休みでした。することが無く「退屈」という贅沢な悩みを抱えていました。この「天国」はいつまで続くのかと考えていました。時間はたくさんあったのでいつも以上にニュースを見るようになりました。私が国会議員という職業を知ったのはこの時です。

学年が上がるにつれ、将来の夢を見据えて進路を考える機会

が増えました。その時考えていた将来の夢は、パン屋になって自分の作ったパンを弟に食べさせてあげたいという大雑把な夢でした。パン作りの知識を学ぶのは、高校ではなく大学からと考えていたので、自分の将来について周りの友人ほど真剣に考えてはいませんでした。

そんな風に漠然と将来について考えていた時、ある動画を目にしました。その動画ではある国会議員が内閣委員会で熱心に質問をしている動画でした。その動画を見た時に、政治の世界はこんなに面白いのか、こんなにも活気に満ちているのかと、ワクワクしました。それと同時に、政治の世界についてもっと知りたいと思い、その時以来、さらにニュースを見るようになりました。時間がある日は新聞も読むようになりました。

中学校三年生の三月、大勢の大人の前で将来の夢を話す機会がありました。その時すでに国会議員にあこがれていた私は、迷わずに国会議員になりたいと言いました。自信満々で言った

つもりでしたが、返ってきたのは、オーっと驚く声が少しと、大きな笑い声でした。もちろん馬鹿にするつもりで笑ったのではないと思いますが、自分の夢が否定された気がして少し悲しかったのを覚えています。いろんな人から国会議員は、寝ているだけでお金がもらえる楽な仕事とも言われました。それでも国会議員になりたいという思いが変わることはありませんでした。

高校生になってからは自分の夢を誰かに話すことは少なくなりました。夢について話してもまた笑われたり、何かを言われるかもしれない、そんな思いが心のどこかにあったのだと思います。しかし国会議員になりたい、という思いは変わることなく政治関連のニュースはより深く見るようになりました。

この30年間、日本の政治のプロ、経営のプロ、経済のプロ、専門家が政治に関わってきて、変えることができなかった不景気を変える術は、私たち高校生が握っていると思っています。しかし、誰に投票すればいいのかわからない、今より悪くなる可能性もあるから今のままでいい、今のままでいいから投票に行かない、という負のスパイラルが出来てしまっているように感じます。

そんな人たちの希望となる国会議員になりたい、将来のこと

で不安になることがないような政治をしたい、それが私の夢です。自分ひとりの手には負えない、大きく壮大な夢かもしれませんが、絶対に成し遂げたい私の夢です。まだまだ経験も知識も何もかもが足りません。そしてスタートラインにも立てていませんが、まずは夢を実現するための第一歩を踏み出せるように、地道な努力をしていきたいと思っています。

